

一房のぶどう



第4号

平成 17 年 5 月 15 日

編集・発行／あきる野市教育委員会 〒197-0814 あきる野市二宮 350 ☎042(558)1111 (代)

家庭への3つの呼びかけ

家庭でも本を楽しもう

読書は子供の心を広げたり、たくましくしたり、豊かにしてくれます。

あいさつをしましょう

あいさつは、良い人間関係を築くためにとても大切です。まず大人が手本を示しましょう。

会話する力をつけよう

親子の会話を通して、互いの信頼感や親子の絆が強まります。



あきる野市公立小学校教育研究会発足

「どの子にも確かな学力を～授業力の向上を目指して～」を共通テーマに掲げ、4月20日に発足しました。全12小学校の教員が参加し、教科毎の13部会に分かれ教育研究を行いました。各部会とも熱気あふれる取り組みを見せていました。



「これまでの教育」と「これからの教育」雑感

教育委員長 坂詰武義

「教育」とは、フランス語やドイツ語では「教える・養育」の方の意味合いが強く、他方、ラテン語や英語では、他に「育てる・引き出す」という意味合いも併せ持っているのが特徴です。広辞苑では「教育とは、教えること。人間に他から意図をもって働きかけ、望ましい姿に変化させ、価値を実現する活動である」と解説しています。要するに、「人を教えるだけでなく、その能力を引き出し育成すること」が主要目的であると言えます。

従来の我が国の教育では「教」と「育」とが2つに分断され、しかも、前者のみが声高に叫ばれる一方で、後者は蔑ろにされ、活躍の場も与えられず不遇に甘んじていたというのが基調であったと言えましょう。今、我が国は第三次教育改革の只中にあり、産業・労働・教育3者の連携融合のメカニズムにも多少の変容が見られることから、従来の教育システムの踏襲だけでは、教育は社会変化への対応から取り残される危険性があります。かかる中「これからの教育」が取り組むべき課題は「育・育てる・引き出す」の復権に他なりません。「これまでの教育」の「教・教える」が目指した効率性・迅速性・合理性を柱とした万人向けの取り組みから、一見不効率性・ゆったりした着実性・豊かな個性作りを主体とした個人向けの取り組みへ「教・育の重点の転換」が必要で、然し、重点の転換が行われても、それが直ちに、現在抱えている課題に全て対応可能であるなどという心算は毛頭ありませんが、この重点の転換という発想の切り替えにより、社会や日本人が喪失したものの、大切なものが復権して来るかも知れません。それが何なのか？期待と不安交々の複雑な心境になるのは私だけでしょうか？

家庭は教育の原点です③

家庭の役割を見直してみましよう。

このコーナーでは、教育の原点である家庭の役割について考えたり、紙面で意見交流をしたりしていきたいと考えています。今回は、第3号で特集した、「子どもを家事に参加させよう」について寄せられたご意見の一部と、家庭へのメッセージ「あいさつをしまじよう。」を掲載します。

前号で特集した「子どもを家事に参加させよう」について、寄せられたご意見の一部を紹介します。

●生活が便利になり、私たち大人が日々の生活で体験してきた当たり前のことを子どもがしていないことに気づきました。お風呂の水を入れ過ぎないように時間や水の量に気を配り、水を入れすぎたときには叱られ、また、「〇〇のおかげで毎日お風呂に入れるよ」と誉められることを通して、自分の役割についての責任を自覚していたものです。こういう何気ないことが子どもにとって大切な教育になっていたのですね。

（小学生の保護者）

●小学校でも学級の様々な仕事を分担して係活動を行っています。はじめは「働く」ことを嫌がる子どもも、友達と一緒に活動する中で、苦労したり工夫したりする楽しさのようなものを味わった



▽このコーナーへのご意見や感想をお寄せ下さい。
指導・学務課 ☎558-8859

あいさつをしまじよう。

「おはよう」と言えば、「おはよう」と返ってくる。こんなあいさつは、家庭の会話に花を咲かせ、お互いの気持ちを明るくします。また、あいさつは、よい人間関係を築くためにも大切です。

最近では、機器が便利になりすぎて、生の声であいさつを交わしたり、声をかけ合ったりすることが少なくなりました。だからこそ、あいさつや声かけをいっそう大切にしましょう。

では、家庭での「あいさつ」について振り返ってみましょう。

■朝はお互いの顔を合わせて「おはよう」を言っていますか。

■食事をする時は、「いただきます」と「ごちそうさま」。生き物の大切な命をいただくのですから、感謝の心で言いまじよう。

■「行ってきます」「行ってらっしゃい」「ただいま」「お帰りなさい」を言いまじよう。

■お互いに何かしてもらったら、必ず「ありがとう」を言いまじよう。

■間違いに気づいたら「ごめんなさい」と子どもが言えるよう、親がお手本を示しまじよう。

■夜は「おやすみなさい」。優しい声は相手を優しく包み、安心を与えます。

ご家庭でこのようなあいさつができてくると、外でもあいさつのできる子どもになります。

明るいあいさつが行き交う家庭、そして明るいあいさつが行き交うあきる野のまちを、みんなでつくりまじよう。

教育委員会の取組

平成 17 年度、教育委員会では次のような課題や問題について取り組んでいきます。

- いじめ・不登校ゼロへの挑戦
- 学校の安全・安心対策
- 学力向上対策
- 小規模学校対策
- 小中一貫教育問題

平成17年度 学校教育の重点的な取組

平成17年度 学校教育の重点的な取組

豊かな人間性と未来をひらく学力を兼ね備えたあきる野の子ども

学力の向上事業の推進—学びの意欲と学習習慣—

子どもの学力向上には、教員の授業力の向上が不可欠です。また、家庭における予習・復習などの家庭学習も大切です。基礎的・基本的な内容の定着は、子どもたちが将来、様々な分野で活躍するための土台作りです。学ぶことの楽しさやわかることの喜びを味わわせる授業を目指します。

教育委員会では、次の学校を研究校として指定し、授業の改善や家庭との連携など、子ども一人ひとりの学ぶ意欲を向上させ、学びの習慣化による確かな学力を定着させる取り組みを進めます。

授業改善研究推進校（東京都）：秋多中学校（全教科）、**研究推進校（あきる野市）**：五日市小学校（算数）、南秋留小学校・秋多中学校（算数・数学）、**研究協力校（あきる野市）**：東秋留小学校（特別支援教育）、屋城小学校（算数）、一の谷小学校（算数・国語） **情報モラル教育モデル校（東京都）**：多西小学校、**日本の文化・伝統理解教育推進校（東京都）**：一の谷小学校

特別支援教育の推進—個性を認め合い、共に生きる—

東京都の特別支援教育体制・副籍モデル地域としての2年目です。特別支援教育検討委員会（大学、医療、学校、市民、行政）での検討を中心に、学校における特別支援教育の推進体制、巡回相談などの行政的なサポートシステム、都立盲・ろう・養護学校との副籍事業などについて、本市の実態に合った体制整備を進めます。

幼稚園・保育園との連携 就学前の子どもや指導の様子を小学校に引継ぎ、入学期の指導に生かせる仕組みについての研究・実践にも力を入れていきます。

……いじめ・不登校^{ゼロ}への挑戦……

子どもが互いに認め合い、また、大人が子ども一人一人の個性や可能性を適切に生かせる環境が整えば、いじめや不登校は「0」にできる。その責任が、私たちあきる野市民にあります。このことへの挑戦を始めます！ 家庭、学校、地域の行動連携を一層強化します。

人権教育の推進—命を大切にし、思いやる心を育む—

子ども一人ひとりが自分の大切さを認め、他の人の大切さを認めることができる環境づくりを進めます。命はかけがえのないものであり、互いを思いやる心の大切さは、家庭、学校、地域の全ての場で、自分自身がかげがえのない存在であり、自己のよさや可能性を自覚できる環境の中でこそ育成されます。家庭、学校、地域が共通の認識で、子どもが、「自分は周りの人々に大切にされている」と実感し、他人を思いやる行動を示せる力を身に付けることを目指します。

人権教育総合推進地域事業 平成16年度から3年間、文部科学省の指定を受け、次のような市内小中学校等が連携する3つのブロックを中心に、意識調査や高齢者・障害者との交流など、人権の課題を絞って、研究と実践を進めます。

〔秋川ブロック〕 東秋留小 屋城小 草花小 前田小 南秋留小 東中
 〔西中ブロック〕 西秋留小 一の谷小 西中 都立あきる野学園養護学校
 〔五日市ブロック〕 五日市小 戸倉小 小宮小 五日市中

みんなな学校を目指します。

西秋留 小学校

本校では、人と人のかかわりを大切にし、「共に学び共に育つ学校」を学校経営の基本としています。その上で、「西秋留小の子ども」としての誇りと教育力の輪をベースに「かけがいのない一人」の人間形成を目指しています。



竹川 博校長

教育目標

- ＜心豊かなたくましい子ども＞
- 思いやりのある心
- 考える力
- じょうぶなからだ

今年度「西秋留小プラン」とし、「子どもが変わり、教師も変わる学校」を合言葉に、日々の授業の充実と子どもの活動の充実に取り組んでいます。そのために、今年度はより一層、校内研究、特別活動の充実を図っています。

また、本校5人のコーディネーターを推進役に子どもの支援の充実を図っていきます。

開校131年目を迎え、昨年度130周年を祝う集会を行い、記念誌を作成いたしました。

本校の伝統として、地域の方々のご尽力で、5年生がお米づくり、6年生が菊作りを行っています。

○副校長：安西 浩

屋 城 小学校

本校では、教育目標の「や（やさしい子）・し（しっかりした子）・ロ（ロマンのある子）」を合言葉に、全教職員一丸となって、人権尊重の精神のもと、心身ともに健康で、豊かな児童を育てようとしています。



平田 和孝校長

【屋城小レインボープラン】

1. 「いのち」の大切さを基本にした人権教育の推進
2. 「確かな学力」を身に付けさせる学力改善・向上の取り組み
3. 特別支援教育の充実
4. 読書好きを育てる学校図書館活動の充実
5. 「屋城池」・多摩川など地域の自然を生かした環境教育の充実
6. A E T ・ J I C A ・ ユニセフなど国際理解教育の推進
7. I C T のリテラシーを身に付けさせる情報教育の推進

屋城小は、「安全で安心して学べる地域の学校」をめざしています。地域は、子ども達にとって、生活と文化、学びの拠点です。子ども達が家庭・地域から背負ってくるランドセルの中身を大切にしながら、学校として何をランドセルに入れて帰せるのかを大切にしたいと考えています。どうぞご理解とご協力をよろしくお願い致します。

○副校長：岸田 俊昭

一の谷 小学校

- ① よりしっかりと
国語・算数の少人数指導と15分学習で学力アップ。
- ② より豊かに
地域の文化や自然を生かして学びの豊かさ倍増
- ③ より安全に
地域との連携で子どもを守る。



高橋 志夫校長

＜教育目標＞

- よく聞いてよく考える
- やさしい心
- 最後までがんばりぬく

＜今年度の特色＞

- 算数は全学年、国語は3年生以上で20名程度による少人数指導に取り組めます。
- 英語に親しむことを中心にした国際理解教育にも力を入れます。
- 特別支援教育に全校をあげて取り組みます。
- 学校公開を各学期に1回休日に行い、地域との連携を深めます。

本校は、サマーランドの目の前にあり、全校冷暖房完備です。校庭を囲む500本の木、鯉が泳ぐ池、水車は地域の手によって整えられた本校の誇りです。今年、不審者対応としてのファックス送信システムやホテル園も新たに整備され、地域とともに創立30周年を胸を張って迎えることができます。

○副校長：荒井 善雄

前 田 小学校

基礎基本の定着、人権教育・特別支援教育の充実を二本柱とし、地域との協力のもと、ボランティア活動、米作りなど体験学習を充実させています。通級指導学級「ことばの教室」を開設しました。



佐藤 道孝校長

「命を大切にし、ともに輝き生きていこう」

- 仲良くー自ら学び、考える力を育てる
- かしこくー一人の良さ、自分の良さを生かし合う
- たくましくーじょうぶな体とねばり強い心を育てる

4つの「前田っ子」自慢

- ①しっかりと掃除ができる。だから学校に入ると、明るくきれいだとなとも思います。
- ②元気に挨拶ができる。だから、職員室や校長室に子ども達の元気な挨拶が飛び込んできます。
- ③静かに話を聞くことができる。だから校長は朝会や儀式のときマイク無しで話をします。
- ④よく外で元気に遊ぶ。だから昨年、学級閉鎖は1学級もありませんでした。

○副校長：秋本 浩市

戸 倉 小学校

7名の新入児童を迎え、全校児童32名で新学期がスタートしました。家族的な雰囲気の中にも節度をもって、明るい挨拶や子どもたちの歓声にあふれた規律ある学校づくりを目指します。



岡部 廣校長

＜教育目標＞

- 人権尊重の精神を踏まえる特色ある教育を展開する。
 - 考える力と思いやりの心を育てる豊かな人間性や基礎・基本を身に付ける。
 - 心身共に健康で、自ら学び実践する児童の育成。
- ＜子どもの姿＞
- 行動する子 ----- 進んで考える子
 - 思いやりのある子
 - 体を大切に子

＜そんなためにこんな学校を＞

- (1)心を育てる学校に
- (2)学力の向上を目指す学校に
- (3)特色を生かす学校に
- (4)開かれた学校に
- (5)安全な学校に
- (6)信頼される学校に

今年で開校132年を迎える戸倉小学校は、かつて戸倉城があった城山のふもとにあります。春には花が、夏には清流が、秋には紅葉があり、冬には野鳥がくる豊かな環境に囲まれた学校です。また、地域全体で学校を支える土地柄の中で子どもたちはのびのびと育っています。38年目を迎える愛鳥教育も本校の特色の一つです。

○副校長：須崎 和英

小 宮 小学校

「泉湧き、ヤマメが踊る 緑の里の小学校」目指すは、子どもから「小宮小で学んでよかった」、保護者から「小宮小に入れてよかった」と言われる「地域が自慢の小学校」



篠原 敬子校長

学校教育目標

- 気づき考え実行する子
 - 仲よく助け合う子
 - 明るく元気な子
- 目指す子ども像
- ㊦ 行動する子
 - ㊧ 見つめる子
 - ㊨ やさしい子
- 「こ・み・や」の子

【授業力向上】

日々の授業の充実が第一。例えば校長、副校長も含め全教員が授業を研究し合って、より分かりやすい授業を目指します。

【サマースペシャルカリキュラム】

夏休み中の8日間を加えて、年間208日の授業を行います。

【家庭学習連絡ノート】

日々の様子を記録して担任と交換し、保護者と連携した家庭学習を推進します。他にもたくさん。小宮小は変わります。

○副校長：稲葉 春紀